

日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所 第66回公開研究会

ガバナンスの効用と課題

日 時：2018年7月30日（月）13:30～16:30（受付：13:00～）

場 所：アルカディア市ヶ谷 6F「霧島の間」

私立大学は、その経営管理の態様が多様であり、画一的に語ることは困難であるが、厳しい環境変化の中で生き残るためには、今までにまして教学改革と経営改善を推し進め、社会の期待に応えることが必要となっている。近年、私立大学のガバナンスの在り方に関心が高まっており、文部科学省では学校法人制度改善小委員会が設置され、私立学校法の改正を含む議論が進められている。

当研究所の昨年度のプロジェク​​トでは、アンケート調査及び実地調査から、2015年度の学校教育法改正後の変化を受けて、各私立大学の中・長期計画の策定方法、ガバナンスの設置形体における特色や好事例を取り上げ、共通する課題と展望についての分析を行った。

そこで今回の公開研究会では、このプロジェクトの成果の報告を行うと共に、文部科学省や私学経営者を含む関係者とのパネルディスカッションから、今後の私立大学の管理運営の方向性を提起したい。

1. 「厳しい時代に立ち向かう大学マネジメントに求められるもの」(13:30～14:30)

篠田 道夫 氏（桜美林大学大学院教授・日本福祉大学学園参与/本研究所研究員）

本研究所プロジェクトによる実地調査及びアンケート調査の比較・分析から、ガバナンスの現況と課題を捉え、2018年以降の大学マネジメント改革の方向性、確固とした旗印、構成員の力を生かすリーダーシップ、補佐機能の強化、教育の質向上へのシフト等、研究成果を報告する。

休憩（14:30～14:45）

2. パネルディスカッション（14:45～16:30）

パネリスト：篠田 道夫 氏（桜美林大学大学院教授・日本福祉大学学園参与/本研究所研究員）

井上 睦子 氏（文部科学省 高等教育局 私学部 参事官）

谷岡 一郎 氏（大阪商業大学 理事長・学長）

井原 徹 氏（実践女子学園 理事長・元大学行政管理学会 会長）

本山 和夫 氏（東京理科大学 理事長）

進行役：西井 泰彦（本研究所主幹）

学校法人運営調査においてみられる私立大学運営面の問題点をチェックしながら、管理運営制度の見直しやガバナンス・コードの普及などを含めて、文部科学省、私大研究者、私学経営者の立場から、ガバナンスの課題を掘り下げる。

お申し込みは…

日本私立大学協会 web サイト (<https://www.shidaikyo.or.jp/>) “協会トピックス” の本件から「申込フォーム」に記入の上、7月20日（金）までにお申し込み願います。

*会場の都合により先着120名、1機関3名迄とさせていただきます。参加料は無料です。

*ご登録頂いた情報は、本研究所の事業運営の活動に必要な範囲に限って、利用致します。

【問合せ先】日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所 坂下 景子、遅澤 泰 TEL：03-5211-5090